《Decomposition》2022年 Courtesy the artist and Yutaka Kikutake Gallery, Tokyo Photo: kugeyasuhide

ARTISTS TO WATCH

世界が注目する最旬アーティスト

感性や想像力を刺激し、時代を映す鏡である現代アート。
今、覚えておきたい若手女性作家7人を紹介。

《I/O》2023年「第14回光州ビエンナーレ」展示風景 Courtesy the artist and Yutaka Kikutake Gallery, Tokyo
Photo: kugeyasuhide

日本代表としてベネチア・ビエンナーレに参加

世界最大級のアートの祭典、ベネチア・ビエンナーレ。2024年の日本館代表作家に選ばれ、注目を集める毛利悠子さん。彼女の作品は、食べ物や楽器、機械の部品など身の回りにあるものを組み合わせ、目に見えない事象を視覚化するインスタレーションが特徴だ。「日ごろ、ボーっと考えていることが、あるタイミングでテーマとして立ち上がってくる。そこに日用品を使う理由があるのだと思います」と話す。

例えば《I/O》は、吊り下げられたロール紙が床の埃やちりを拾い、その痕跡を電気信号に変換することで、扇風機や古い楽器が動きだすという仕組みに。また、《Decomposition》は、フルーツとスピーカーをつなぎ、決して一定ではない電流・電圧・抵抗値を音に変換する作品。

「現代社会の構造は極めて複雑化しています。そこで、いろいろなオブジェや現象といった異種的なものが、一時的に一つのエコシステムを形成するような世界をインスタレーションで表現したいと考えています」

そのような生態系の循環を連想させるように、ベネチア・ビエンナーレの展示のテーマを「水」に決めた。“何が起きているのか?”と、国境を超え、見る人の想像力をかき立てながら、五感で感じることのできる彼女の作品を楽しみにしたい。

© Kenshu Shintsubo

PROFILE
1980年、神奈川県生まれ。第67回芸術選奨新人賞受賞。2024年11月〜2025年2月、アーティゾン美術館で個展を開催予定。

ARTIST 61

Yuko Mohri

毛利悠子／アーティスト

text SHIHO NAKAMURA